

一級河川恩智川治水緑地

池島・福万寺遺跡Ⅱ（その5－1・6－1）発掘調査
平成19年12月現地公開資料

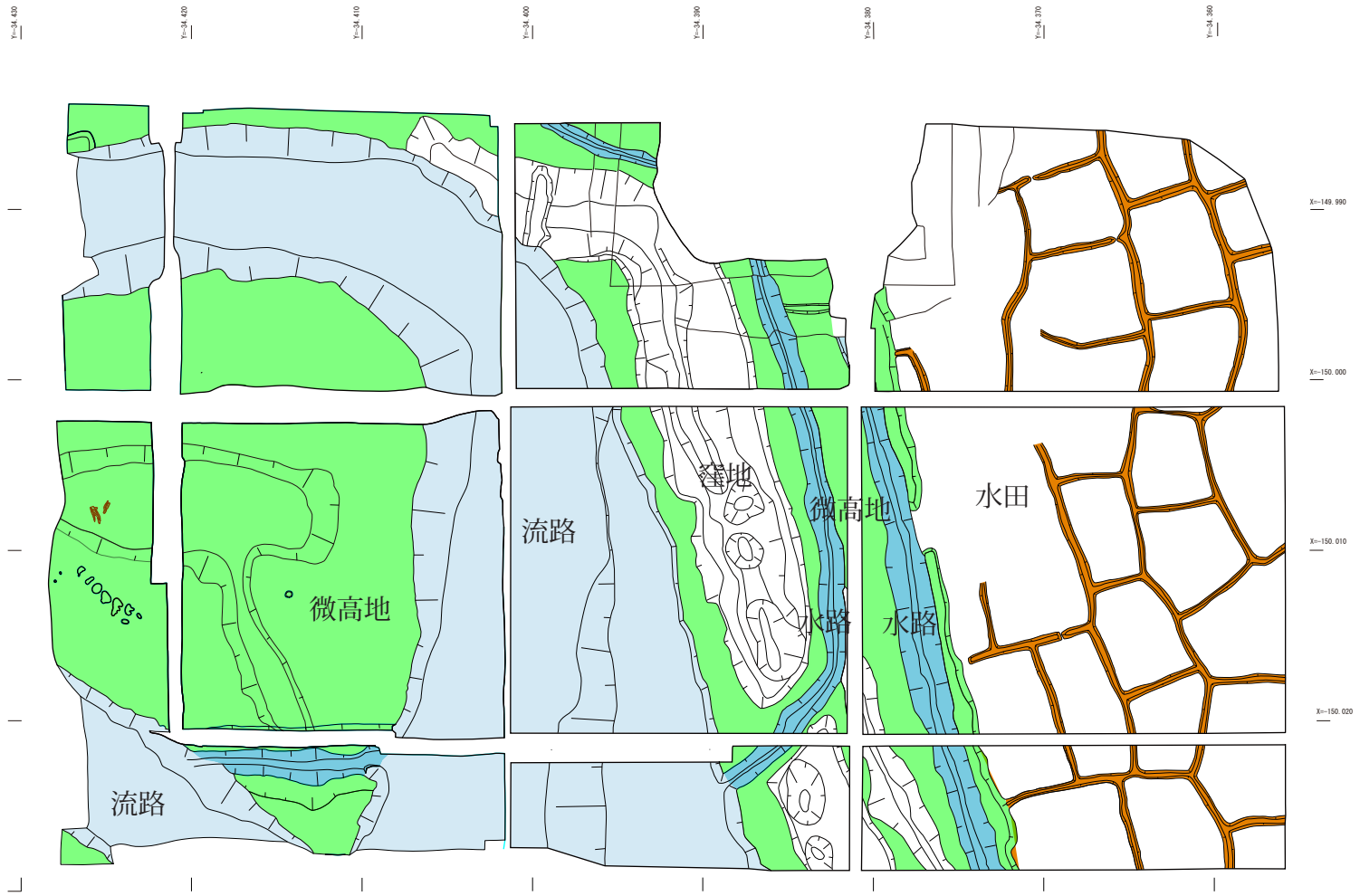
財団法人 大阪府文化財センター
中部調査事務所 池島支所

【池島・福万寺遺跡Ⅱ（その5－1）の調査成果】

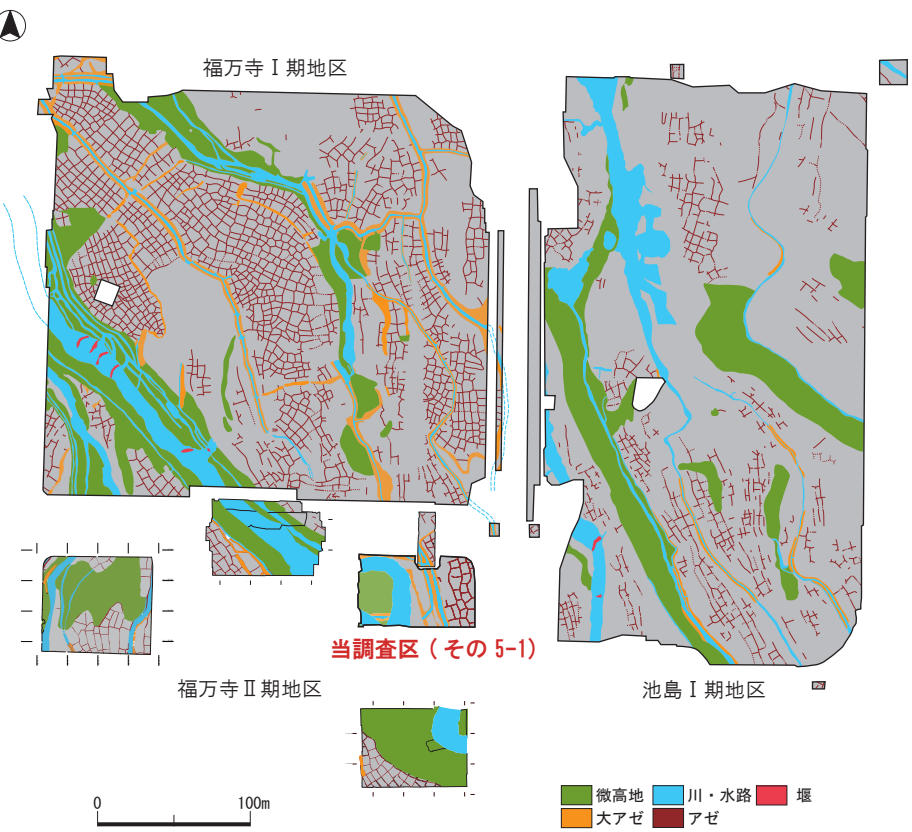
所在地	：	八尾市福万寺町 地内
調査面積	：	2,254 m ²
事業契約期間	：	平成18年 10月 6日～平成20年 7月 31日
調査担当	：	中部調査事務所 池島支所
委託機関	：	大阪府寝屋川水系改修工営所
遺跡の種類	：	生産域
遺跡の時期	：	弥生時代～近世

【これまでの調査と検出遺構・出土遺物】

当調査区（その5－1）は福万寺Ⅱ期地区の北東隅に位置し、平成18年10月から調査を開始しました。これまでの調査で、中世～近世の坪境畦畔・畦畔・島畠・畠・水路・杭列・耕作痕などが検出され、条里地割に基づく水田経営の実態が明らかになりつつあります。また、第4-2面（14～15世紀）の水路からは「量無辺阿僧祇菩」と法華経の一部が墨書された「こけら経」の木片が出土しました。古墳時代の第10面では調査区南西部の微高地上からピットや溝が集中して見つかっています。



池島・福万寺遺跡Ⅱ（その5-1）第11-1面遺構図



池島・福万寺遺跡 弥生時代後期遺構図（これまでの調査成果）

【現在の調査状況】

現在は弥生時代後期（約2000～1800年前）の遺構面を調査しており、調査区の東側（B区）では第11-1面、西側（A区）では第11-2面が検出されています。全体的な地形として、調査区中央部に流路と微高地が存在し、微高地の東側には東へ行くほど序々に低くなる低地が広がり、流路の西側には高まりや窪地が見られます。

調査区中央部では幅約10～20mの流路が南東から北西へと蛇行しながら流れており、福万寺地区の主たる用水源となっています。流路東側の微高地上には南東から北西に幅約1～2mの水路2本が並行して掘削されており、南からの用水を導いていたと思われます。さらに東側の低地部では等高線に沿うかたちで畦畔によって小さく区画された水田が検出されています。

これまでの調査成果と合わせると、蛇行して流れる流路と微高地・低地を弥生人が合理的に利用し、広大な水田を開発していたことが明らかとなっています。

【池島・福万寺遺跡Ⅱ（その6－1）の調査成果】

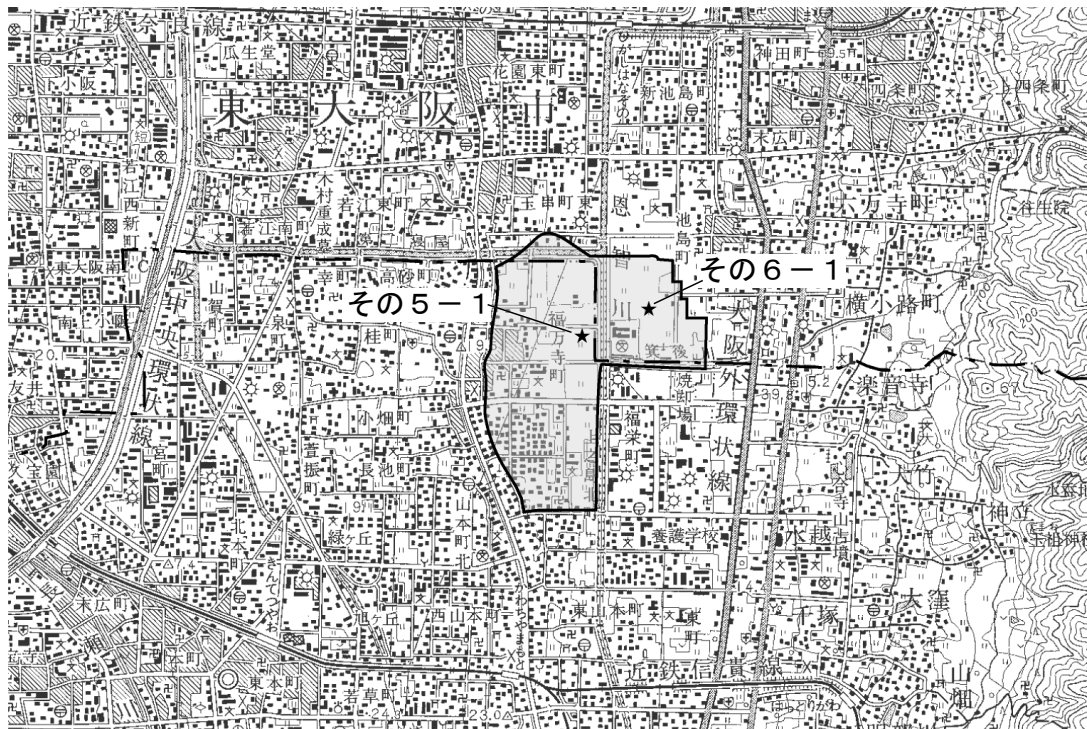
所在地：東大阪市池島町7丁目 地内
 調査面積：2,406 m²
 事業契約期間：平成18年 10月 6日～平成20年 4月 30日
 調査担当：中部調査事務所 池島支所
 委託機関：大阪府寝屋川水系改修工営所
 遺跡の種類：生産域・集落？
 遺跡の時期：縄文時代～近世

【これまでの調査と検出遺構・出土遺物】

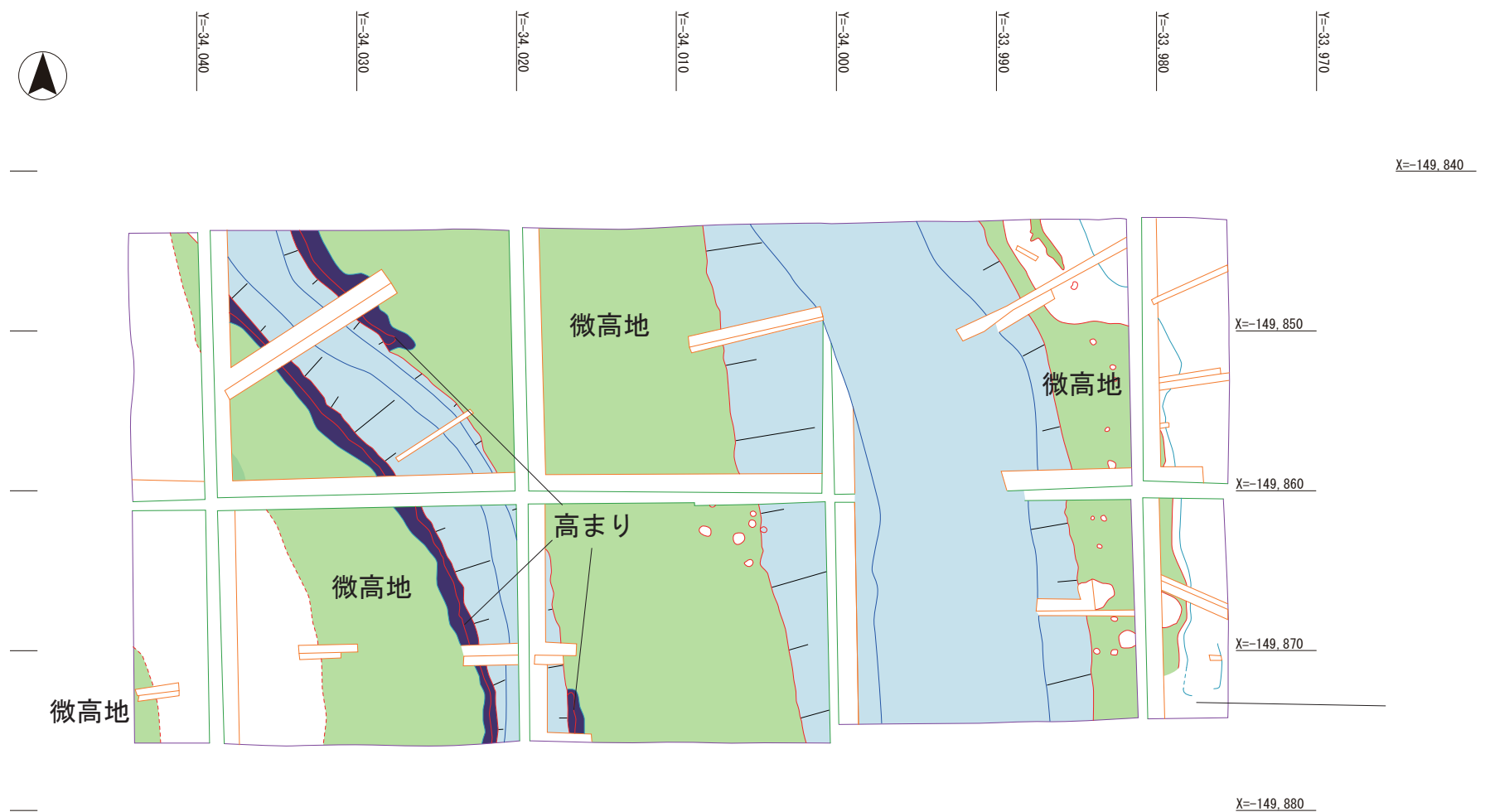
池島・福万寺遺跡ではこれまでに約20ヘクタールの調査地を調査しています。今回の調査区は、近年調査が行なわれている恩智川治水緑地池島Ⅱ期地区の中央部付近に当たります。池島Ⅱ期地区では2001年から調査が行なわれ、これまでに古墳時代の遺構や遺物、弥生時代の青銅器の鋳型などのほか、縄文時代の終わりごろから弥生時代の初め頃の墓地などが調査されています。この墓地からは、木棺や土器棺の他、土壙墓なども見つかり、これらに伴って骨や歯なども検出されています。

今回の調査区では、これまでに16面の遺構面を検出しました。古代に敷設された条里地割に伴う、各時代の土地の区割りの境界線である『坪境』が検出されたほか、水田の畦などが検出されています。また、この調査地部分は、弥生時代を通じてやや周りより高いところであったことがわかっています。

今回、公開した東端の部分は、弥生時代の前期の終わり頃～中期の初め頃に人が生活していたと考えられ、柱跡（ピット）や穴（土坑）などが掘られています。このころ、すでに調査の終わった池島Ⅰ期地区では、全域に水田が広がっていました。詳細については今後の検討が必要ですが、こうしたことから考えて、この柱跡や穴はこの場所で水田稲作を行っていた人々のムラの一部ではないかと考えられます。



池島・福万寺遺跡の位置と調査地



第13面の遺構検出状況



第10面（古墳時代）出土銅鏡

古墳時代の遺構面では、遺構の中からではありませんが、青銅製の鏡が出土しています。なぜ、この位置から出土するのかはなぞですが、こうした鏡が、マツリなどに使われたのかもしれない。



第13b面（東半）遺構検出状況